

シャヤー業誕生100年

1909(明治42)年 官営八幡製鉄所のシャヤーに、イギリスから輸入したシャヤーリングマシンを使って切板生産が

開始されたのが、わが国のシャヤー業の誕生とされる。そこから起算して今年がちょうど100年。

「シャヤーリング(シャヤーリング)」とは、シャヤーの力ナ記載で、その以前は、たがねで切る、切るの意。(要) を使って人力で営々と鉄板を切っていたらしい。それが、機械設備によって瞬時に

主たる役割であり目的だったようだ。耳付き材を主材料とし、最終需要家に加工部材を納入するようにになったのは戦後以降の話。

異形切りが可能な「溶断」が始まる。それまでも手持ち式

NC(数値制御)方式が形成された。今では

出ない。一方、客先から厚物の異形切りが全切断量の80%以上が全切断量の80%以上を占めた。門型溶断機が市場投入されたことで、現在の厚板シャヤー業の業態が形成された。今では

モノづくり産業を下支え

多様な設備でニーズ対応

属工業系シャヤーのシーヤリング工場(堺市西区)である。

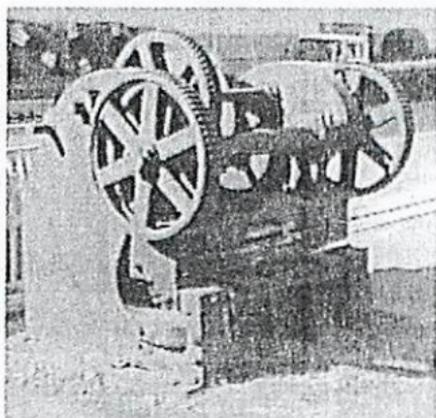
増。それに伴い、切板な切断器はあったが、く、機種もプラズマや

1950年代に入り溶断機メーカーが自走式プロパンだけでなく水

たがねがシャヤー機にムブレナとしてアイ板厚や形状、ロット

シャヤー業は「鉄鋼加工業(なりわい)」とする人ひとりがそれぞれに

形成するのは、世界広



100年前に輸入したシャヤーリングマシン(出所・全国厚板シャヤ工組)

しといえ日本だけ。全国厚板シャヤー工業組合は、その前身である「全国シャヤーリング組合」が1962(昭37)年に、当時の厚板切断業151社が大同団結し任意団体として発足。76年には、31社による工業組合(中小企業団体の組織に関する法律に基づいて法人)に改組した。

を撰びてできるように重電、自動車・車輛、造船といった幅広いは、かつてはシャヤー機需要分野に、その重要な部品となる切板製品を納入。製造立国日本の内定時総会が行われるが「シャヤー業誕生100年」の節目に、参加する加盟企業および

シャヤー業は「鉄鋼加工業(なりわい)」とする人ひとりがそれぞれに思いを馳せる。(文中、敬称略)